



日本大学理工学部科学技術史料センター

特別展
八十島義之助文庫

企画展示コーナー
新谷洋二文庫

会期：平成17年6月18日(土)～9月30日(金)

日本大学理工学部

八十島展の開催に際して

日本大学理工学部次長・科学技術史料センター 副センター長

高田 邦道 (社会交通工学科 教授)

八十島義之助先生は、日本大学理工学部土木工学科の「鉄道工学」を非常勤講師として1960年からご担当いただきました。1972年からは大学院理工学研究科建設工学専攻で「土木計画学特論」の講義をご担当いただきました。当時はまだ、土木工学専攻も社会交通工学専攻もなく、建築学専攻と一緒にあった建設工学専攻しかありませんでした。その後、土木系と建築系が分かれて、土木工学専攻となり、さらに交通土木工学専攻となりました。この間、建設工学専攻、分かれてからは土木工学専攻と交通土木工学専攻で講義していただきました。

八十島先生が講義をなさった期間は、日本大学理工学部の大学院講座の創設期で、大学院の交通あるいは土木計画系の論文審査にも当たっていただきました。それまで、土木計画や交通工学の分野では、交通工学科の創設メンバーのひとりであった谷藤正三先生が大学院生の指導を行っておられました。しかし、谷藤先生が退職後、大学院生の指導のできる先生をお招きする必要があり、当時、東京大

学の教授をしておられた八十島先生にお願いすることとなり、兼任していただきました。そのため、八十島先生には大学院の講義だけではなく、大学院生の修士論文の指導もしていただくことになり、1974年～1981年の間に建設工学専攻を修了した20名におよぶ大学院生の指導教授をご担当いただきました。

その八十島先生の残された膨大な史料を八十島夫人のご好意で、日本大学理工学部科学技術史料センター (CST MUSEUM) に寄贈していただきました。史料は、書籍・雑誌・報告書・委員会資料・地図など、保管ケースで1245箱、史料数にして2万点にのぼります。

今般、日本大学理工学部船橋キャンパスで、(社)土木学会の土木史研究発表会が開催されることに併せて、八十島先生の史料群の一端をご紹介しますこととなりました。今後、CST MUSEUM において八十島文庫の整理や分析を行い、戦後の復興期におけるわが国の国土計画の足跡をたどる重要な研究材料として活用させていく所存です。



特別展開催にあたって

日本大学理工学部長
日本大学理工学部科学技術史料センター長
小嶋 勝衛
(建築学科 教授)



日本大学理工学部科学技術史料センター（CST MUSEUM）は、昨年4月の発足以来、本学部諸先生が研究・開発や保存などに関わった史料をキャンパス内に展示し、多くの方々に大学史の一部を公開してまいりました。

このたび、それら史料群に加えて、CST MUSEUMのもう一つの大きな柱である文献・史資料などのアーカイブズ(文書館)の活動を開始することとなり、その第1回として、特別展「八十島義之助文庫」を開催する運びとなりました。

八十島先生は、戦後日本の国土計画に中心的な役割を果たし、国土形成に一貫して携わってこられました。また、1960年から1980年までの20年間、日本大学大学院理工学研究科で教鞭をとられ、本学部の発展に多大な貢献をなされました。今回、先生の残された貴重な文献・資料の一端を紹介し、本センターがアーカイブズとして目指している活動方針を、広く皆様にご理解いただく機会とさせていただきます。

また同時に、わが国の都市交通計画の発展に尽力された元日本大学理工学部土木工学科教授新谷洋二先生が所蔵されている貴重な文献・資料を、企画展示として紹介させていただいております。

CST MUSEUMは、大学の教育・研究はもとより、社会の要請に応えるべく、鋭意努力を重ねてまいります。皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成17年6月18日

八十島義之助文庫

わが国は、1945(昭和20)年8月の終戦時の疲弊した国土に更に数年にわたって襲来した大型台風や集中豪雨、地震や津波などによる壊滅的な状態からスタートし、20有余年にして世界のGDPの1割強を超える経済大国に発展し、今日も世界有数の安全・安心・安定した社会を形成している。これは、外地から帰国した優秀な人材や農山村からの豊富な労働人口の存在とこれら人口移動による急激な都市化に応じた社会基盤を整備できたことにある。

八十島博士は、戦後復興から高度成長、そして安定均衡発展へという激動の時代に交通基盤をはじめとする数多くの社会基盤整備に係わる教育・研究とその成果の実践を一貫して指導してこられた。

八十島博士は、1919(大正8)年8月27日に東京で生まれ、慶応義塾幼稚舎(尋常小学校)、東京府立高等学校を経て1941(昭和16)年12月に東京帝国大学土木工学科を卒業。翌1942(昭和17)年1月には東京帝国大学の常勤講師に採用されたが直ぐに陸軍兵器学校幹部候補生として入隊。1945(昭和20)年9月に招集解除で大学に戻られ1947(昭和22)年1月に助教(この年10月に東京帝国大学は東京大学と改称)、1955(昭和30)年2月に「敷設軌道の力学的特性に関する研究」で工学博士、同年6月教授(鉄道工学・交通計画担当)に昇格。以降、1980(昭和55)年4月の定年による退官までの38年間にわたって土木計画学をはじめ多くの学問領域の基礎を築かれ、退官後名誉教授。この間、1960(昭和35)年7月から1980(昭和55)年3月まで日本大学大学院建設工学専攻の非常勤講師として指導された。次いで1982(昭和57)年4月に埼玉大学工学部長、1986(昭和61)年12月に帝京技術科学大学長を務め、

1998(平成10)年5月9日虚血性心不全のため逝去。享年78歳。政府は先生の功績を称え同日、従三位銀杯三号を授与。

この他、1975(昭和50)年11月運輸大臣交通文化賞、1985(昭和60)年11月紫綬褒章、同年11月外務大臣表彰、1990(平成2)年5月土木学会功績賞、同年6月環境庁長官表彰、1991(平成3)年11月勲二等旭日重光章を受ける。

八十島博士は大学での土木工学、特に鉄道工学を中心とする交通工学、交通計画、景観工学、国土計画などの研究成果を世に問い、本州四国連絡橋上で世界初の高速列車走行を実現したのをはじめ地下鉄などの軌道系公共交通機関の線路網設計の問題、道路計画や総合的な都市交通体系の理論的・実証的問題に取り組み、その成果は東京をはじめとする多くの都市における交通計画策定に大きく貢献した。また国土計画の分野においても今日に至るわが国の総合開発計画に常に指導的な役割を果たした。1987(昭和62)年6月に策定された第四次全国総合開発計画から五全総となる「21世紀の国土のグランドデザイン」(平成10年3月策定)にかけては国土審議会の委員または会長(1988(昭和63)年7月から1994(平成6)年10月まで)として国土政策の基本的な方向をまとめられたことは特筆すべきものである。

八十島博士の理念は、大学での教育・研究を実社会の設計・計画に生かすという学理と実践の賢明な関係に発展させることにあった。各種政府委員や公益法人などを通しての活動はそのことを裏付けている。代表的な政府委員として、学術審議会や科学技術会議のほか首都圏整備委員会、経済審議会、運輸政策審議会、国土総合開発審議会、国土審議会、産業技術審議会、鉄道建設審議会、国土開発幹

線自動車道建設審議会、中央公害対策審議会、航空審議会などがありそれぞれで中心的役割を果たされた。

また日本学術会議第5部長・副会長、土木学会会長、国際交通安全学会会長、鉄道総合技術研究所会長、また創成期の世界交通学会では理事として基礎を築かれた。

このような八十島博士の広範な活動の証が膨大な史資料として遺され、日本大学理工学部に寄贈された。今後、社会資本の形成過程の研究資産としてまた情報資産として選別・整理のうえ公共政策や社会資本形成過程に興味を持つ多くの学生・研究者ならびに実務者の要求に応えうる拠点となるものである。

(理工学部上席客員研究員 五老海正和)



| | | | |
|-------------------|--------------------------------|-------------------|-------------------------------|
| 1919(大正8)年 8月27日 | 東京で生まれる | 1981(昭和56)年 1月20日 | 日本学術会議第12期第5部長 |
| 1941(昭和16)年12月31日 | 東京帝国大学工学部土木工学科卒業 | 5月2日 | 社団法人土木学会第69代会長 |
| 1942(昭和17)年 1月 6日 | 東京帝国大学工学部講師 | 1982(昭和57)年 4月28日 | 埼玉大学工学部長 |
| 1953(昭和28)年 4月 1日 | 東京大学工学部助教授 | 8月18日 | 国土開発幹線自動車道建設審議会委員 |
| 1955(昭和30)年 4月 2日 | 工学博士の学位授与、 同年6月 工学部教授昇格 | 10月22日 | 日本学術会議副会長 |
| 1960(昭和35)年 7月20日 | 日本大学大学院建設工学専攻 非常勤講師 | 1984(昭和59)年 5月23日 | 財団法人国際交通安全学会第2代会長 |
| 1968(昭和43)年 5月 2日 | 学術審議会専門委員 | 1985(昭和60)年11月 3日 | 紫綬褒章受章 |
| 1970(昭和45)年 6月16日 | 運輸政策審議会委員 | 1986(昭和61)年12月26日 | 帝京技術科学大学学長 |
| 1973(昭和48)年 4月 1日 | 本州四国連絡橋公団技術委員会委員 | 1987(昭和62)年 1月 8日 | 講所始の儀ご進講 |
| 1975(昭和50)年 1月11日 | 科学技術会議専門委員 | 1988(昭和63)年 4月 1日 | 世界交通学会横浜大会組織委員会 会長 |
| 2月28日 | 首都圏整備審議会委員 | 7月25日 | 国土審議会会長 |
| 8月13日 | 国土総合開発審議会特別委員 | 1990(平成2)年 1月28日 | 首都機能移転問題に関する懇談会 座長 |
| 1976(昭和51)年 4月 1日 | 世界交通学会理事 | 5月28日 | 社団法人土木学会功績賞受賞 |
| 7月 1日 | 東京大学創立百年記念事業 募金連絡・推進委員会副委員長 | 1991(平成3)年 11月 3日 | 勲二等旭日重光章受章 |
| 1978(昭和53)年12月24日 | 東京大学評議員併任 | 1992(平成4)年 3月27日 | 財団法人鉄道総合技術研究所会長 |
| 1979(昭和54)年 6月 1日 | 国土審議会委員 | 1993(平成5)年 6月 9日 | 皇太子徳仁親王殿下結婚の儀参列 |
| 6月14日 | 産業技術審議会委員 | 1995(平成7)年 3月27日 | 航空審議会委員長(運輸省) |
| 1980(昭和55)年 4月 2日 | 東京大学定年退官、 同日3日 埼玉大学教授 | 1998(平成10)年 5月 9日 | 逝去(同日 従三位に叙せられ銀杯 一組を賜与される) |
| 5月12日 | 名誉教授の称号授与 | | |

広島都市圏交通計画について

広島都市圏交通計画は、計量的な方法による総合的な都市交通計画として、パーソントリップ調査に基づく四段階推定法をわが国で初めて実施したものである（1967年12月～1968年5月に調査）。この交通計画の立案プロセスは新谷先生が当時考えられたものであった。この計画の特徴は、

- ① パーソントリップ調査を主体とする現況調査に基づき都市交通需要を把握し、人口や土地利用に見合った交通計画を立てたこと
- ② 交通施設計画としては、代替案を検討してフィードバックシステムを用いて最適計画の発見の方向に努めたこと
- ③ 輸送形態として道路のみに限定せず、鉄道、

地下鉄等についても考慮したことであった。その結果、初めて時刻別に、交通目的別に人がどう動いているかという実態を把握することができた。このようにして開発されたパーソントリップ調査に基づく方法が、現在の計量的な交通計画の一般的な方法になっていることを考えると、広島都市圏のパーソントリップ調査は非常に意義深いものであったといえる。なお、この調査に関わられた先生と藪本健作氏(当時建設省中国地方建設局企画部長)は、「広島都市圏における総合的交通計画に関する研究」として1969年度日本都市計画学会の石川賞(調査研究部門)を受賞している。

CAMPUS ACCESS MAP



■日本大学理工学部 駿河台キャンパス

〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
tel. 03-3259-0514 (庶務課)

■日本大学理工学部 船橋キャンパス

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1
tel. 047-469-5330 (庶務課)

[科学技術史料センター]

tel. 047-469-5220

<http://www.museum.cst.nihon-u.ac.jp/>